

The Way to Justice and Peace
正義と平和への道

マルコによる福音書 1 : 1-9



Rev Dr Olav Fykse Tveit

オラフ・トヴェイト牧師

WCC（世界教会協議会）総幹事

2014年12月7日

臨節第2主日

日本聖公会 奈良基督教会にて

キリストにある親愛なる姉妹兄弟の皆さん

今日ここで、特にこの美しい日本の国の、この美しい奈良の礼拝堂で、皆さんと一緒にイエス・キリストに礼拝を献げることができることを大変うれしく思います。

世界中の人々と一緒に、WCC（世界教会協議会）の交わりに属する異なった伝統を持った諸教会の中で、わたしたちは今日一緒に、イエス・キリストに従うのです。

イエス・キリストに最初に従った人々は「この道に従う者」と呼ばれました（使徒言行録 9:2）。

わたしたちは一緒にこの道を歩んでいます。とりわけわたしたちは、大きな群れとしてではなく、非常な多数者としてではなく、この道を皆さんと一緒に歩んでいるのです。これは特別に感動的なことです。

WCC世界教会協議会は、1年前に韓国の釜山で開かれた第10回総会〔2013年10月30日～11月8日〕から始まったこの期間のために、わたしたちの信仰と働きを「正義と平和の巡礼」と決めました。皆さんの聖公会およびカトリック教会は、宣教と奉仕の働きを「共歩性」「一緒に歩こう」と定めておられます〔注・日本聖公会の東日本大震災被災者への支援活動が「一緒に歩こう」プロジェクトとされていることを意識されています〕。皆さんは、これが信仰の道であることを示されました。

愛をもって働くこと。また正義と平和の中で生きることができず、恐れを抱いて暮らしている人々、自然災害の犠牲者、また人間がもたらした災害の犠牲者のために奉仕すること——これが信仰の道であることを皆さんは示されたのです。

先ほど読まれた詩編ではこう歌われていました。

「慈しみとまことは出会い、正義と平和は口づけする」 85:11

エキュメニカル運動〔教派を超えた教会の一致と連帯の運動〕は信仰の運動です。エキュメニズム〔教会一致〕とは、一緒に道を見つけ、その道を一緒に歩こうとすることです。これが実は教会会議（synod）の意味であり、それは「一緒にその道を歩む」ということなのです。

それではどのようにしてわたしたちはこの道を見出すことができるのでしょうか。一緒にこの道を歩むとはどういうことなのでしょうか。

今日読まれた福音書がまさにこの道の始まりを伝えています。マルコ福音書は最も古い福音書であって、この最初の節は文字通りこう述べています。「これは福音の初め」、「神の子イエス・キリストの良き知らせの初め」です。次の文は預言者イザヤからの引用で、「主の道を備える」人が来る、と告げています。わたしたちを導いて一緒にわたしたちの道を歩ませる重要な言葉が、この福音書から聞こえてきます。

1. この道を歩むには、正しい方向に向かってスタートすることが必要です

良き知らせ（福音）は「他の道」についての物語として始まります。わたしたちはすぐに特別な人物の不思議な物語を聞くのです。その人物は、非常な貧しさの中に生き、荒れ野に暮らし、宗教的また政治的な中心の外にいます。ヨルダン川はこの場所では、文字通り世界の底を流れています。地上の最も低いところ、海面から 300メートル下を流れています。それは暑く、非常に渴いた場所です。

マルコによる福音書のこの初めに、わたしたちはすぐに言わば「反対の物語」に出会います。これは、もう一つの道に生きる人の物語、もう一つの方向を示す人の物語です。洗礼者ヨハネは、彼の後に来られる方を指し示しますが、その方はまったく異なった方なのです。その方は、予想されていたのとは違う別の方向へと進む道を示されます。イエスの物語は、間違った場所から始まり、間違った終わりを迎える、間違った方向へ行く——そのように見えます。

けれども実にこれこそが主の道なのです。

主の道。そこでわたしたちは方向を変えるように呼びかけられます。神が創造されたいのちを破壊するあらゆるものから離れるようにわたしたちは呼びかけられます。命の神は正直な（誠実な）人々を呼び求められます。過去を隠さず、敬虔なあるいは丁寧な言葉や習慣の中に罪を覆い隠さない誠実な人々、過去の過ちから悔い改め

る人々を神は呼び求めておられます。命の神は、変化に向かって開かれた人々 [変化を受け入れようとする人々]、方向転換を受け入れようとする人々を求めておられます。命の神はわたしたちを命の源へと招いておられます。それは、洗礼の生ける水に現されたものです。

罪からの悔い改めが起こるとき、その人生は正しい出発をし、正しい方向に向かって進むこととなります。

わたしたちは、他の人たちについて「彼らが間違っている」と言ってしまう、自分たちは正しいと思い込むことに夢中になることがしばしばあります。そのことをわたしたちキリスト者は、またキリスト者のリーダーは告白しなければなりません。自分を正しいとすることは決して命の道ではありません。

福音（良き知らせ）とは、もう一つの道があるということです。正しい方向に向かう道をわたしたちに示すことのできる方がおられます。福音とは、イエス・キリストに従うことが命の道を見出すことだ、ということです。これは排他的ことではなく、傲慢なことではありません。他の人を指さして非難することではありません。そうではなくて、謙遜に真実に向かって、ほんとうのことに向かって開かれていることです。わたしたち自身についてのほんとうのこと、他の人のついてのほんとうのこと、また特に他の人々を治める力を与えられた人々についてのほんとうのことを、まっすぐに見つめることです。それが福音です。

列車は非常に速く走るかもしれません。とても快適です。しかし

それが間違った方向に向かっているなら、とんでもないことです。

ですから、命の道は正しい方向に向かって出発すること、正しいしるしに従うことが必要です。そしてこれらのしるしとは、兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音なのです。

2. 真理を告げるにはひとりの使者で十分です

洗礼者ヨハネの物語は非常に短いですが、それは根本的なものです。それは、真理（真実）を告げた一人の人の物語であり、そのために自分の命を犠牲せざるを得なかった人の物語です。力を持ったヘロデは、自分が荒れ野の声によって批判されるのに耐えられませんでした。彼の行動は、ヨハネが正しかったことを証明しています。悲劇的ですが、ほんとうにそうです。けれどもそれが起こる前に、ヨハネは人々に命の道を見出すように助けることができました。ヨハネは人々が命の源を、命の神を見出せるようにしました。

真理を告げるためには一人で十分です。真理は多数を必要としません。正義と平和への道は、必ずしも多数の人々が行く道ではありません。命への道は今もなお、あらゆる人が必要としており、その道へと導くことはだれにとっても良き知らせなのです。

神の正義と平和——それは神がイエス・キリストにおいて無条件で与えてくださったものです——それを指し示すことは教会の使命です。正義と平和が互いに結び合っていて一つであるということ

示すことは教会の使命です。この世界において神が正義と平和を示しておられるのを見出そうとすることは教会の使命です。このことのためにわたしたちは多数である必要はありません。しかしわたしたちはこの召命（神の招き）に従うことが必要です。悔い改めをもってイエス・キリストに従うことが必要です。

教会にとって、またわたしたちイエス・キリストに従う者にとっての良き知らせは、いつでも新しく始める可能性があるということです。正しい道へ、正しい方向へと立ち戻ることができます。洗礼の力、洗礼の持つ意味——それはわたしたちを日ごとに新しくスタートさせてくれます。悔い改めへの招きは、日ごとの悔い改めへの招きです。日ごとにわたしたちは真理の中に入っていけるように、また神がわたしたちに正しい方向を与えてくださるように願い求めることができます。これが良き知らせです。

3. わたしたちは一緒に命の道を見出し、その道を歩みます

たとえ洗礼者ヨハネがアウトサイダーであったとしても、彼はイエス・キリストとの交わりを求めた人であり、イエス・キリストとの関係、またお互いの関係を求めた人でした。悔い改めとは、人々の間にある命と平和を破壊するものから離れることです。

日本は、戦争の経験があり、また他の国を抑圧した歴史を持っています。と同時に日本は、民主主義と平和の歴史を持っています。

日本の教会は少数者であるという経験をしてきましたが、同時にイエス・キリストの広いエキュメニカルな交わりに属しているという経験を持っています。その交わりは**正義と平和の巡礼**の途上での交わりです。正義と平和の巡礼の道においてわたしたちは皆さんを必要としています。日本の人々が、その道において皆さんを必要としています。

日本の人々は皆さんを必要としています——武力によらずに衝突と紛争を解決するという約束として、皆さんのものである憲法第 9 条を保ち続ける取り組みのために。人類の将来のため、平和への道として、核兵器に頼らない、また原子力エネルギーに頼らない。そのことの意味をはっきりと示してほしいと、皆さんはこの東北アジアの地で求められています。

皆さん近くの都市で、地球環境と気候保全のための温室ガス規制のための最初の条約が結ばれました。京都議定書（1997）です。そのことを示す存在として、世界が皆さんを必要としています。

皆さんと一緒に、わたしたちは祈ります。神の意志が現実となりますように。み心が天に行われるとおりに、地にも行われますように。今日も明日も。

将来に向かってこの道を見出すために、わたしたちはお互いを必要としています。

一緒に歩みましょう。アーメン

（通訳・井田 泉）